

さまざまな立場から地産地消に
取り組む方をご紹介します

はまふうど人登場

Vol.66

かねこふぁ〜む
金子宗司さん
(戸塚区)



昔ながらの風景が残る舞岡ふるさと村

舞岡ふるさと村で、農を感じる体験を

戸塚区の舞岡ふるさと村にある「かねこふぁ〜む」は季節ごとに果樹や野菜の収穫体験ができる農園として評判です。体験には毎回定員を超える申し込みがあり、なかでも梅の収穫には約1,000人も参加者が訪れます。代表の金子宗司さんは「うちは元禄時代から続く農家。父が農地を受け継ぐ時に、当時本業だった設計の仕事と兼業できるよう梅栽培を始めました。収穫作業が大変なので、お客様に梅のもぎ取りをしてもらう体験を始めたんです。当時としては珍しいものでした」と収穫体験のきっかけを教えてくださいました。

近くの保育園や学校などの受け入れも積極的に行っており、舞岡ふるさと村推進協議会主催の収穫体験の受け入れも村内にある他の農家と分担しています。「とにかく畑に来て、体験してほしい。農産物が高くなったと価格だけをニュースでクローズアップされることが多い昨今ですが、畑での作業は、暑かったり、農産物がとても重かったり、中腰の姿勢が大変だったり。実際の農業を、その人なりに感じてほしいです」と金子さんは静かに語ります。

農園はご家族と常勤スタッフ1名の計5名で運営しています。梅や柿などの果樹栽培のほか、栽培期間中は農業を使用せず、有機肥料を使った野菜栽培。そして収穫体験、喫茶、加工品、直売所など取り組みは多岐にわたります。

「喫茶あとリエ」は父が設計し、大工の兄が建てました。そしてコミュニケーションの得意な母が、接客を担います。ジャムや柿酢、柿チップなどの加工品開発は栄養士である妻やスタッフのアイデアによるもので、直売に添えた看板やラベルは、デザイナーである妹が手掛けたものです。傷のあるものや小さい実など販売できない農産物を無駄にしないので、加工品にしています」と金子さんは話します。

季節の収穫体験、そして、まるで隠れ家のように素敵な喫茶や直売所にはリピーターが絶えません。お子さんが学校で体験をした後、家族で訪れる方も多いか。「育てたものは無駄にしない、農業の現状を感じてほしい」という信念は、農園を訪れた人たちにゆるやかに伝播し、魅了していきます。



かねこふぁ〜む代表の金子宗司さん。
かねこふぁ〜むは、横浜市内でも最大規模の梅農園です



ジャム各種と梅干。梅は、神奈川県果樹立毛共進会ウメの部にて、優秀賞を受賞

例年開催している収穫体験

- 4月 タケノコ
- 5月 梅
- 6月 玉ねぎ、ジャガイモ
- 10月 サツマイモ
- 11月 里芋、ヤーコン
- 12月 みかん、鶴首かぼちゃ
- 1月 ねぎ

要予約



梅のもぎ取り体験の様子。この後10月はサツマイモの収穫体験がスタートします!(写真:かねこふぁ〜む)

INFORMATION

かねこふぁ〜む (戸塚区舞岡町1911)
月火休み。収穫体験、農園内直売所のほか、毎週木曜は戸塚区役所で直売も行う。

Instagram



横浜市からのお知らせ

11月は
地産地消月間!!
横浜農場

●レシートキャンペーン

よこはま地産地消サポート店を利用したレシート応募で素敵な賞品をプレゼント。

よこはま地産地消サポート店って? > 横浜市が登録する、市内産農畜産物を積極的にメニューに取り入れ地産地消に取り組んでいる市内の飲食店等

●「フォロー&いいね」キャンペーン

横浜農場公式Instagramに「フォロー&いいね」をして応募すると素敵な賞品があたるかもしれません。詳細はInstagramをチェックしてください。

横浜農場公式Instagramでは横浜の農景観や地産地消イベントなどの発信を行っています。横浜の農やイベントにご興味のある方は、ぜひフォローをお願いします。



はまふうどナビのバックナンバーは
ウェブサイトでもご覧いただけます

はまふうどナビ

検索



Instagram
@横浜農場

横浜みどりアップ計画

発行:横浜市農業振興課 令和6年10月発行
〒231-0005 横浜市中区本町6-50-10 TEL:045-671-2639 FAX:045-664-4425

10
2024
Vol.66

はまふうどナビ



横浜農場

よこはまの農と暮らしを結ぶ情報誌

本物の田畑で
土に触りたい!

地域の農を学び、体験するには「恵みの里」「横浜ふるさと村」の農体験講座をCheck! 横浜市環境活動支援センターでは、植え付けから収穫までを連続講座で体験できます。



野菜を
上手に育てるコツって
あるんですか?

区画ごとに借りられる「市民農園」が横浜には数多くあり、横浜市のHPにはマップもありますよ。初めて畑デビューする方でも、まわりの方に相談しながら栽培を楽しむことができます。



こんなに多彩! 特集 横浜の 農体験フィールド

農業が盛んな横浜では、果物や野菜の収穫や米づくりなど田畑で農作業を体験できる場がたくさんあります。

詳しくは中面へ!

土にふれ、自分の手で食べ物を育て収穫する時間は、子どもだけでなく、大人にとっても癒しとリフレッシュ、健康づくりにつながります。横浜市の農体験の場はバリエーションがとっても豊か!農業と自然に親しんでもらいたいという共通した思いで開催されている、そんな横浜の農体験の場の数々を紹介します!



果物や野菜を
自分で採って
食べたい!

という方にはフルーツ狩りやいも掘りなどの「収穫体験農園」がおすすめ!「恵みの里」「横浜ふるさと村」の体験講座もどうぞ!



REPORT 1 地域の農文化を伝え継ぐ 田奈恵みの里の農体験

恩田川沿いに水田と畑が広がる田奈は、昔も今も農業が盛んなエリアです。平成11年、市内で初めて「恵みの里」(P3参照)として指定された田奈恵みの里では、当時から変わらず体験水田を毎年行っており、今も30組約100人の家族が田植えから稲刈り、脱穀に参加します。この体験水田は、東急田園都市線の開発で新しい住宅地が急増した頃、地域の営みである農業を新住民にも理解してもらいたいと始まったものだったとか。田奈恵みの里では、水田での米作りのほか、野菜の収穫体験、名物の「田奈うどん」作りやよもぎだんごといった郷土料理教室など多数の農体験講座を毎年開催しており、地域の伝統を実際の農家の方々に学べると大人気です。



田奈の風物詩となっているかかし作りも、体験スタート当時からプログラムの一環として行われていたそうです



田奈恵みの里では、地域の農家47名からなる「田奈恵みの里推進委員会」が農体験講座などを運営しています。写真は、同会で先代から受け継いで長年体験水田講座を行ってきた鴨志田清さんと、食育や料理教室の部会を担当する岡部妙子さん

あなたの
お好みはどこ?

横浜の農体験ゾーンを一挙公開!

横浜市内の農園や、市の農業関連の施設・団体の多くが農体験の講座や収穫体験を主催しています。手軽に農体験デビューできる収穫体験や、何回かにわたる連続講座、実際に小さな農地を借りて栽培できる市民農園、生産者に指導してもらいながら農業デビューできるプログラムなどスタイルはさまざまです。

フルーツ狩りや野菜の収穫ができる 収穫体験農園



横浜市内の
収穫体験農園一覧はこちら



市内の生産者が開設する農園で、果物のもぎ採りや旬の野菜類の収穫など様々な体験ができます。イチゴ、ブルーベリー、なし、ぶどう、カキ、みかん、キウイフルーツ、サツマイモ、ジャガイモなどのほか、タケノコやしいたけ、その時に畑で採れる旬の野菜の収穫ができる農園もあり、季節の爽りを楽しめます。



＜重要＞

農体験は予約が必要なことがあります。早い時期に満席となることも多いので、申し込み情報はお早めにご確認ください。

小さな農地を借りて農ライフデビュー 市民農園 市内347カ所



市民農園
マップ

継続的に農作業を楽しみたい方は「市民農園」を借りてみてはいかがでしょうか?上の二次元コードのサイトでは、開設者が掲載を希望した市内の市民農園をマップで確認することができます。土を耕し野菜を育てて味わう農ライフを楽しめます!

市民が農とふれあえる 農園付公園 市内11カ所

耕作が難しくなった農地を公園として市が買い取り、市民の皆様が農体験できる区画貸しの農園を公園に開設し、農にふれあう機会を提供しています。公園整備の一部に横浜みどり税を活用しています。



盛りだくさん! 全6回 家族で学べる 横浜市環境活動支援センター 「家族で学ぶ農体験講座」



〈横浜市環境活動支援センター〉保土ヶ谷区狩場町213
同センターでは、援農者や緑化ボランティア向けの市民農業
大学講座も開設。新規就農者の育成も実施しています。

横浜市内で唯一、横浜市の農業専門の職員が講師となって連続形式の農体験講座を開催しているのが「環境活動支援センター」です。「児童遊園地」と併設する広い敷地内にある畑で、植え付けから収穫まで農作業体験を家族で楽しめます。小学生とその家族が対象で、毎年4月に参加者を募集し、6月から12月にかけて全6回で開催します。

Event 11/3 (日・祝) 「農と緑のふれあい祭り」 10:00~14:00

場所:横浜市環境活動支援センター、横浜市児童遊園地、横浜市こども植物園
キッチンカーによるお弁当やアイスクリームの販売、横浜ブランドフルーツほか農産物即売、木工クラフト体験や竹細工販売など。



講座を運営する職員・スタッフの皆さん

農業が盛んな地域で
地元生産者が農体験を行う

恵みの里 市内5エリア



〈横浜市の恵みの里〉
各恵みの里で開催する活動内容の詳細や、
体験講座のお申込み情報などをご覧ください。

「恵みの里」とは、地域ぐるみで農業と農地を残し、農のあるまちづくりを進めるために横浜市が指定するエリアです。地域の農家による組織が、それぞれの地区ごとに個性豊かな農体験や地場野菜等を使った料理教室などを行っています。

●田奈恵みの里(緑区・青葉区)

恩田川流域に広がる市内有数の水田地帯で、野菜と果樹の栽培も盛ん。商業地・住宅地が近く都市農業の拠点として活動を活発に行う。
〈体験できること〉体験水田(P1参照)のほか、玉ねぎ、サツマイモ、落花生などの収穫体験や、郷土料理教室なども開催。

●新治恵みの里(緑区)

横浜の原風景と言われる美しい谷戸田と里山風景を残す貴重な場所。
〈体験できること〉昔ながらの器具を使った新米体験(稲刈り、脱穀、精米)、トウモロコシ、サツマイモ、冬野菜などの収穫体験や農業教室、農家の案内による里山散策。

●北八朔恵みの里(緑区)

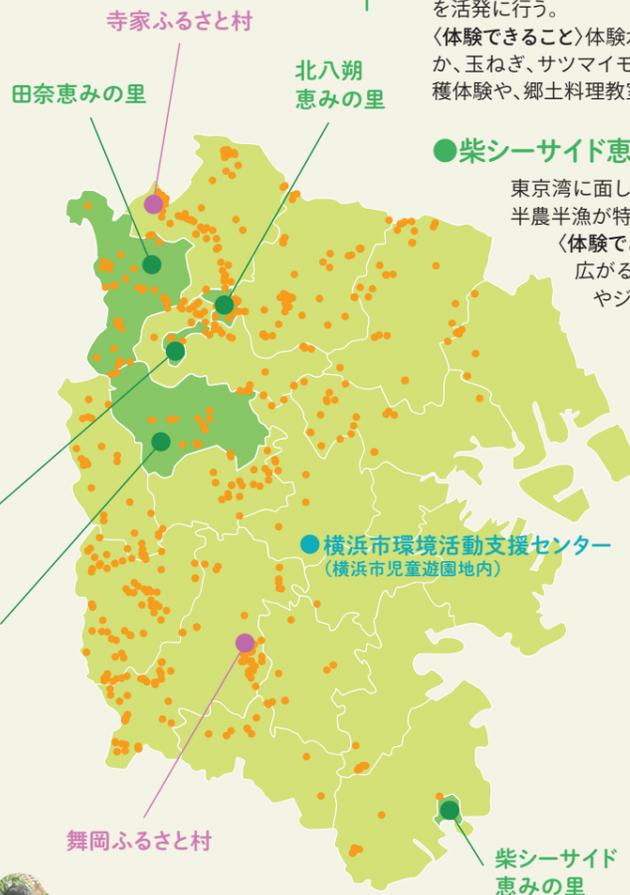
高速道路の横浜青葉IC近くにあり、米作りや浜なしなどの果樹栽培が盛ん。収穫時期には期間限定で浜なしの直売所もオープン。
〈体験できること〉体験水田(近隣小学校の児童対象)。

●都岡地区恵みの里(旭区)

ズーラシアなどの周辺緑地や山林と一体的に緑が豊かに残るエリア。
〈体験できること〉稲刈り・脱穀体験、枝豆、トウモロコシ、サツマイモなど多品目の作物の収穫体験や農業教室のほか、収穫したオリーブを加工品にする珍しい教室も開催。

●柴シーサイド恵みの里(金沢区)

東京湾に面した柴漁港を有する半農半漁が特徴の地域。
〈体験できること〉丘の上に広がる農地でみかん狩りやジャガイモ掘り。



●=収穫体験農園や市民農園など

昔ながらの農村風景の中で、農体験ができる

横浜ふるさと村 市内2カ所



両ふるさと村の
お知らせや
プロフィールはこちら

横浜の昔ながらの里山風景を保全し、農地を今に残す地区が「横浜ふるさと村」。総合案内所である「四季の家」(青葉区)、「虹の家」(戸塚区)では、農体験をはじめ自然と農にふれあい、学べる企画を行っています。

- 寺家ふるさと村(青葉区)
- 舞岡ふるさと村(戸塚区)



寺家ふるさと村。雑木林に囲まれた「谷戸田」での水田体験

REPORT 2 「家族で学ぶ農体験講座」 畑の楽しみをフルコースで満喫!

6月29日に行われたこの日のメニューは、10日前に行われた講座で植え付けたサツマイモと落花生、枝豆畑の草取りと作物の観察でした。いきなり畑に入るのではなく、何のための作業をするのかを講師が座学で20分程度説明します。サツマイモや落花生が開花した後どのように実っていくかの解説を受けた後、畑に移動。抜いていい草と、作物の茎を見分けるのがちょっと難しく、講師に質問をしながら皆さん草取りに励みます。と、思えば、真面目に作業をする大人を横目に、子どもたちはバッターやんとう虫に夢中!これもまた、家族で畑に来る楽しみの一つですね。畑での作業の後には、園内の別の畑でトマトや甘長とうがらし、なすを収穫し、トマト6品種の食べ比べ。お土産に野菜セットやオリジナルシールももらえて、大人も子どもも全員、はればれとした表情をしていたのが印象的でした。



保土ヶ谷区だけでなく中区や金沢区からも参加があります。お子さんと参加した女性は「マンション住まいなので、子どもに畑を教えたかった」と嬉しそうに話します



「狩場の丘」と呼ばれる高台の公園の中にある畑がフィールド

遊びに
きてね!